

みんなの「笑顔」のために

二島中学校 二年 松岡 海音



私の「夢」は、世界中に笑顔や夢、生きる希望を届けることです。

私は、もともとネガティブ思考でした。相手が冗談で言ったとわかっていても、その言葉が気になりました。また、誰かが笑っていると、その対象が自分ではないかと考えていました。「もう少し、明るく前向きに考えられようになりたい」そんな思いをずっともっていました。中学入学をきっかけに「自分を変えたい」と強く思うようになりました。「もう小学校とは違うんだ」と、多くの人と関わり、今までの自分ではできなかったことに挑戦するようになりました。大きく変わるチャンスは、すぐにやってきました。中学校では、生徒総会が行われ、その時の生徒会執行部の先輩方の姿に感動しました。二島中学校をより良くしようと真剣に発言される先輩方がかっこよくて、私

の憧れになりました。そして「あの先輩方のようにになりたい」と思い、その年の秋に行われた生徒会三役選挙で、副会長に立候補することを決意しました。「明るく笑顔の絶えない二島中学校にしたい」との思いで、選挙活動を行いました。初めは、不安な気持ちもありましたが、友達からの応援や先輩方の姿が心の支えになりました。気づけば「絶対になる」という前向きな気持ちをもつことができました。ここから、自分が変わり始めたような気がします。

今年、学習生活副委員長として活動しています。様々な学校行事に向けて準備をし、みんなの喜んでいる顔を見ると、やってよかったという気持ちになりました。先輩方との打ち合わせでうまくいかないことや、大変だと思うことも多かったです。「頑張ったらその先にきっと何かいいことがある」と信じて続けてきました。

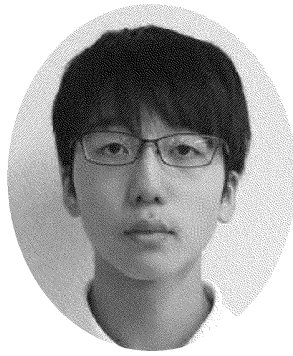
現在、私にとって生徒会とは、一緒にいるだけで楽しくて、

安心できる心の居場所です。今年も、生徒会三役に立候補することを考えています。「明るく笑顔の絶えない二島中学校にしたい」みんなが笑顔であれば、自然と明るく楽しく、誰もが過ごしやすい学校になっていくと思うからです。そのために私ができることがしたい。視野を広げ、夢を叶えるための一歩を踏み出し、何事にも挑戦し続けていきたいです。私の一歩一歩は小さいかもしれませんが、諦めずに歩き続けていきたいです。二島中、北九州市、そして、世界中の人々が、笑顔で夢をもって一生懸命になれることを願い、私も努力します。



よりよい世の中を 目指すために

高須中学校 二年 太田 晴



私は、世の中をより良くしていくためには、一人一人が自身の人間性を磨くこと、そして、社会をより良いものに変えていくことが重要になってくると思います。

それでは、これらを実現するにはどうすればよいのでしょうか。それに対して、私は、「一人一人が意見を持ち、それを発表する」ようになれば実現できるのではないかと考えました。なぜかという点、意見を発表することは、人間性を磨くこと、社会をより良いものに変えていくこと、という二つの効果があると考えたからです。

意見を発表するためには、他人の話を聞く力、他人に対して意見を述べるための話す力など、さまざまな力が必要になります。

す。そして、これらは人間性を成長させる要素でもあります。そのため、意見を積極的に発表できるようになると、さまざまな能力が伸び、人間性にかかわる力も鍛えられ、自身の人間性を磨くことができると思います。

また、意見を出すということは、社会に関わる、ということにもつながると思います。社会といっても、身の回りの小さな社会からとても大きな社会までありますが、どのような社会でも、それを作っていくには、一人一人の意見が求められます。

しかし、学校の授業などで発表を求められた時などに周りを見渡してみると、意見を述べる人が全体的に少ないと思います。また、よく発表する人と、あまり発表しない人が、大体決まっていると思います。これがなぜ起きるのかを考えたときに、もともと意見をあまり出さない人は、意見を出すのに慣れず、発表の場などで緊張や恥ずかしさなどを感じて意見を出さないのではないかと考えました。

しかし、発表に慣れるには、意見を発表しなければなりません。そのため、意見を発表することをためらっているままだと悪循環が続く、意見を発表することから遠ざかってしまいます。だからこそ、どこかで発表することができれば、悪循環を断ち切り、人前で発表することへのためらいが徐々になくなり、最終的には人前で発表できるようになると思います。

このように社会をより良くするためには、一人一人の意見が重要となります。しかしながら、先ほど述べたように、最初は、恥ずかしさなどを感じる人が多く、意見を述べる人が少ないと思います。そのような時は、ぜひ自分から意見を発表してみてください。自分が積極的に意見を出すことできっかけを作れば、恥ずかしさが和らぎ、発表する人が増えていくと思うからです。また、自信がなくとも意見を出すことができれば、意見が間違っている、正しくても、それは自分の成長につながります。そして、他の人が意見を出しやすい場を作ることでもできるかもしれません。このように、自分から意見を出すことは、自分と周りの成長につながります。

だからこそ、皆さんも学校の授業などで、意見を出すようにしてみてくださいいかがでしょうか。そうすれば、少なからずより良

い世の中につながるかもしれません。



憧れの薬剤師

向洋中学校 二年 佐々木 結矢



僕の夢は、薬剤師になることです。僕は薬剤師がかっこいいと思います。そう思ったのは、風邪をひいて病院に行った帰りに立ち寄った薬局で、ある薬剤師のお兄さんに出会ったからです。

僕が熱を出したときに薬をもらうために薬局に行ったとき、そこで薬を調べて持ってきてくれた薬剤師のお兄さんが、その薬のことをくわしく説明してくれました。その人は、見るだけで薬のことが好きだとわかるような笑顔で、楽しそうに薬を説明してくれました。いつもなら、かぜで体がだるくあまり説明が聞きとれないのですが、その人が説明をしてくれるとわかりやすく、さらにこちらまで元気になるような気がしました。そんな姿を見たとき、薬について説明するだけで他人を元気にしてしまう薬剤師のお兄さんにあこがれを持ちました。た

だ仕事をこなすだけでなく、わかりやすく、さらに元気になるような説明ができる薬剤師に僕もなりたいと思うようになりました。

ですが、調べてみると薬剤師になるためにはとてつもない量の勉強が必要なのだそうです。仕事の内容も、人の健康を支えるというとても大切な仕事で、病院の先生がだした処方を確認して薬をつくったり、薬の副作用、ほかの薬と合わせて使ったらどうなるか、また個人の体質、アレルギーと照らし合わせて薬に問題がないか確認して、わかりやすく患者さんや家族、そしてさらに、看護師さんに正しい使い方を説明する、服用後体に異常がないか、残っている薬はどれくらいかなどを把握しないといけないです。

この難しい仕事を、ミス一つなくやりこなさないといけないのです。さらに、薬の情報が変わっていないか、新しくなっていないかなどを毎日勉強することも欠かせません。それらをこ

なしながら薬剤師のお兄さんが笑顔で説明してくれていることはとてもすごいことなのだと思えました。

薬が好きだけ、することをただこなすだけでは成り立たない難しい仕事なのに、どうしてあんなに笑顔で仕事ができるのだろうと疑問にも思いました。それは、おそらく薬をもらう人のことを一番に考えているからではないでしょうか。薬剤師のお兄さんが「お大事に」と言ってくれると、早く治ってほしいという思いが伝わってくるので、本当に早く治りそうな気がします。ほかに、風邪でのどが痛いと言えど、何百もありそんな薬の引き出しから迷いもせずにと薬を取り出してくれました。つまり、どの薬がどこの引き出しにあるかを常に把握しているのでしょう。その迷いもなくすぐに取り出してくれる姿は、僕の目にとってもかっこよく映りました。

僕は少し気になりました。薬剤師のお兄さんは、一日にどれくらいの人に薬を渡しているのでしょうか。病院の先生と違って、薬剤師が注目されることは少ないのですが、病院の先生と同じくらい大変ではないかと僕は想像しています。みんながあまり気づかないところで地域の人たちの健康を支えてくれていると考えると、僕はますます薬剤師のことがかっこよく思えます。そんな縁の下の力持ちとして働いている薬剤師に、僕

はさらに憧れがよくなってしまいました。

僕は改めて薬剤師について調べてみて、さらに薬剤師がかっこよく思えて、なりたいと思うようになりました。だけれど、ただかっこいいからなどの理由でなつてはいけない仕事だということもわかりました。僕が最初にあこがれたきっかけの薬剤師のお兄さんのように、説明で人を元気にしてしまうような人になれるかどうかはわからないけれど、どんなに具合が悪い人にも、その一人一人にあった薬を渡して、もらった人が元気になるような薬剤師に僕はなりたいたと思いました。

